

中間評価（表紙）

盛岡市歴史的風致維持向上計画（平成30年11月13日認定）
最終評価（平成30年度～令和9年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物の保全・活用	3
II 市民の歴史文化への理解と地域固有の歴史文化	4
III まちなみと景観形成	5
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 盛岡市における観光客・参加者・入場者数の増加	6
ii 良好な景観の形成	7
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 歴史的風致形成建造物保存整備事業	8
B 盛岡城跡保存整備事業	9
C 無電柱化事業	10
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 さんさ踊りにみる歴史的風致	11
2 盛岡八幡宮とその周辺の祭礼にみる歴史的風致	12
3 水と関わる暮らしにみる歴史的風致	13
4 盛岡の伝統産業にみる歴史的風致	14
■ 庁内体制シート（様式6）	15
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	16
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	17

市町村名	盛岡市	評価対象年度	H30～R4年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	盛岡さんさ踊りにみる歴史的風致	I・II・III	
2	盛岡八幡宮とその周辺の祭礼にみる歴史的風致	I・II・III	
3	水と関わる暮らしにみる歴史的風致	II・III	
4	盛岡の伝統産業にみる歴史的風致	II・III	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的建造物の保存・活用に関する方針		
II	市民の歴史文化への理解と地域固有の歴史文化に関する方針		
III	まちなみと景観形成に関する方針		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	盛岡市における観光客・参加者・入場者数の増加		
ii	良好な景観の形成		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	歴史的風致形成建造物保存整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	盛岡城跡保存整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
C	無電柱化事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	盛岡市（景観政策課・歴史文化課・公園みどり課・観光課）	評価対象年度	H30～R4年
方針	I 歴史的建造物の保全・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】旧城下町では、歴史的価値の高い建造物が所在しているが、老朽化に伴う維持困難等より、失われてしまった建造物も多く、十分に保存・活用が図られているとはいえない状況である。
 さらに、史跡盛岡城跡は、廃城時に特徴的な建物が失われたことなどから、城郭としての歴史性が感じにくい状況である。
 【方針】史跡盛岡城跡は、史跡の重要な構成要素である石垣の保存修理を進め、史跡の歴史的・文化的価値を向上させるための事業に取り組み、歴史的価値の高い建造物については、市民や来訪者の利活用を促進するため保存整備に取り組む。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的風致形成建造物保存整備	紺屋町番屋の改修と利活用	あり	H29～R3
2	盛岡城跡保存整備	石垣修復、遺構整備	あり	H25～R9
3	大慈寺地区街なみ環境整備	歴史的建造物3件の修景助成を実施	あり	H30～R3

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

- ・歴史的風致形成建造物保存整備（大正2年築の紺屋町番屋）
 地元から寄附を受けたが老朽化や耐震性不足の解消のため改修工事を行うと共に地元の活性化を図るため事業者を選定した。
 令和4年3月から市と事業者は賃貸借契約を締結し、1階はカフェや物販、2階は機織り体験スペースとして利活用を開始した（令和2年1月 歴史的風致形成建造物指定）。
- ・盛岡城跡保存整備
- ・三ノ丸北西部石垣の修復工事は令和3年度から着手し、順調に進められている。今後、令和5・6年度で積み直しを実施し、周辺の園路整備も行う予定としている。
- ・本丸に所在した建造物の規模・構造等に関連する情報を得るため、令和元年度から本丸地区の発掘調査を実施しており、現地説明会等には毎年100～280人が見学に訪れている。



紺屋町番屋改修完了R3.11



石垣修復工事の様子

④ 自己評価

景観重要建造物である紺屋町番屋は、利活用事業者を選定し、使いながら施設を良好な状態で保全するという目標に向けて事業開始まで達成できた。
 史跡盛岡城跡三ノ丸北西部の石垣修復の推進とともに、史跡の内容解明につながる各種調査の推進が図られ、市民の関心を高めることができた。



発掘調査現地説明会の様子

⑤ 今後の対応

歴史的風致形成建造物の指定候補は、老朽化が進んでおり、良好な状態で保全し活用するために、修繕計画があるものから優先して指定するなどの対応を行っていく。
 史跡盛岡城跡については、史跡の主要な構成要素である石垣の保存と修復に取り組みながら、史跡の歴史性について理解を促進させるための遺構整備等を推進していく。

市町村名	盛岡市（景観政策課・歴史文化課・観光課・ものづくり推進課）	評価対象年度	H30～R4年
方針	Ⅱ 市民の歴史文化への理解と地域固有の歴史文化	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】伝統的な行事や産業については、過疎化や少子高齢化などの影響により、継承すべき人材の確保や用具類の維持・更新が困難となっており、活動等の休止を余儀なくされる事例も発生している。

また、歴史的資源を解説する説明板、パンフレットやホームページ等については、内容の更新や多言語化への対応が十分ではない。

【方針】伝統的な産業や行事等を広く公開する機会を設けるとともに、説明板や標柱の設置などを行い、歴史的風致を国内外へ情報発信を行い、来訪者の増加や交流の拡大を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	地場・伝統産業振興事業	南部鉄器若手職人による展示会開催	あり	H30～R9
2	民族芸能・祭礼継承支援	山車の企画展や特別運航など支援	あり	H30～R9
3	無形民俗文化財継承支援	青少年郷土芸能フェスティバルの開催	あり	H30～R9
4	歴史的建造物に関する情報発信	歴史的風致形成建造物の標識2件	あり	R4

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・チャグチャグ馬コ及び盛岡さんさ踊り、盛岡秋まつり山車、盛岡舟っこ流しの行事实施等のための運営経費の一部を負担し、支援を行った。また、チャグチャグ馬コは派遣事業を継続して実施し、盛岡さんさ踊りは街なかさんさを実施するなど行事を広く公開することができた。

・地域の無形民俗文化財の継承と地域振興を目的として、生徒児童が出演する「盛岡市青少年郷土芸能フェスティバル」をホットラインサカナチョウで開催、令和2・3年度はコロナウイルス感染対策のため休止したが、再開した令和4年度は1,260人が観覧した。

・歴史的風致形成建造物の標識設置の際に市の公式HPにリンクするQRコードを印刷したことにより、モバイル機器を用いての詳細な解説を閲覧することが可能となった。（2か所）



盛岡秋まつり山車「特別企画展」
「山車特別運行」（R3）



盛岡市青少年郷土芸能フェスティバルの様子（R4）

④ 自己評価

・民俗芸能・祭礼継承支援については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2・3年と中止または規模縮小での開催となっていたが、令和4年に支援を行い、各事業再開することができた。

・当該事業は、平成29年度から実施しており、例年6～9団体が出演している。生徒児童の貴重な出演機会が確保されるなど、地域の無形民俗文化財の継承に寄与している。

⑤ 今後の対応

・民俗芸能・祭礼継承支援については、継続して支援を行っていき、広く多くの方々に公開する機会を設けていく。

地域の郷土芸能を継承させるため、衣装や道具類の更新等に助成を行うとともに、青少年世代による発表の機会を継続的に設けるものとする。

市町村名	盛岡市（景観政策課・歴史文化課・道路建設課・公園みどり課）	評価対象年度	H30～R4年
方針	Ⅲ まちなみと景観形成	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】盛岡城跡公園とその周辺は、中・高層建築物がみられるなど、城下町らしい景観とはなっていない部分も見受けられる。

また、盛岡八幡宮の山車が通行するエリアには歴史的建造物が数多く残っており、盛岡市の中でも歴史的な雰囲気を感じることができるが、盛岡市らしい歴史的景観が感じられにくくなっている。

【方針】盛岡城跡とその周辺は、歴史的風致を感じて散策できる環境の整備を図る。また、盛岡市らしい景観が残されている鉾屋町や大慈寺町界隈は、市民協働によるまちなみを保全するための取り組みや、電柱や電線類の地中化等により良好な景観形成を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	無電柱化事業	電線共同溝工事(550m中100m)を実施	あり	H30～R9
2	景観計画基準への適合	眺望景観保全地域建替え対応	あり	H30～R9
3	公園樹木の整備	盛岡城跡公園内樹木の剪定	あり	H30～R9
4	屋外広告物条例との連携	既存不適格の広告物の是正	あり	H30～R9

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・無電柱化事業

地元へのワークショップや説明会を開催し、R2までに事業用地を取得。現在、電線共同溝の構築を進めている。



電線共同溝工事の状況

・景観計画基準への適合

H30年3月に竣工した岩手教育会館は、景観計画における眺望景観保全地域の岩手山眺望の高さ制限を超える地上7階建てであった。建替えにより地上4階建てとしたことにより視点場からの岩手山眺望が確保された。（事務所、延べ面積6,190㎡）



教育会館の高さの変化

・公園樹木の整備

H28年度に策定した「植栽管理基本計画」の方針に基づき、石垣の景観を阻害している樹木や、地下に埋蔵されている遺構等に損傷を及ぼす恐れのある樹木を選定し、伐採を実施した。その結果、公園内外からの石垣の眺望が確保され、お城らしい景観が徐々に形成されつつある。



史跡盛岡城跡内の樹木伐採

・景観計画に即した屋外広告物条例の許可基準に合わせて、山並眺望保全に係る既存不適格の屋上広告物を是正した。

④ 自己評価

沿線は家屋が隣接し用地取得は困難だったが、地元の理解を深められたことで達成し、工事につなげることができた。

日頃の景観行為届の審査により規制内容が浸透しており、建築主の理解もあり建替え計画はスムーズに推移した。

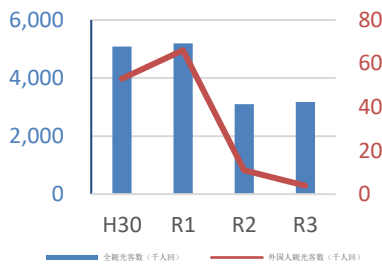
樹木伐採の前には必ず市民向けの説明会を実施し、伐採の意義について理解を得られよう努めた。

⑤ 今後の対応

電線共同溝工事を進めつつ、高品質舗装等の魅力ある景観づくりについても地元や関係機関と連携しながら決定する。

盛岡城跡公園からの眺望領域での建替え等の計画については、眺望の確保に向け引き続き慎重に審査を実施する。

景観を阻害している樹木は公園内にまだ多数、存在していることから、随時、剪定等を実施する。

市町村名	盛岡市(景観政策課・観光課)	評価対象年度	H30～R4年																
効果	i 盛岡市における観光客・博物館入館者数等の増加																		
<p>① 効果の概要</p> <p>盛岡市を訪れる観光客数が令和元年度に過去最高の入込となった。</p>																			
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>盛岡市総合計画</td> <td>あり</td> <td>R4～R6</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>盛岡市観光推進計画</td> <td>あり</td> <td>R2～R6</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>史跡盛岡城跡保整備基本計画</td> <td>あり</td> <td>H25～R4</td> </tr> </tbody> </table> <p>史跡盛岡城跡では石垣解体修復工事にあわせ、市民に対し、現場の公開や石垣の構築に関する説明会を実施したほか、発掘調査成果を公表するため現地説明会等を行った。もりおか歴史文化館では館収蔵資料を中心に、企画展示会を開催した。</p>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	盛岡市総合計画	あり	R4～R6	2	盛岡市観光推進計画	あり	R2～R6	3	史跡盛岡城跡保整備基本計画	あり	H25～R4
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1	盛岡市総合計画	あり	R4～R6																
2	盛岡市観光推進計画	あり	R2～R6																
3	史跡盛岡城跡保整備基本計画	あり	H25～R4																
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>・市内観光客数については、令和元年に過去最高である519万人回となり、「まちなか観光の推進」として、史跡の歴史的価値の向上などの取り組みの強化の効果が表れているものである。令和2年以降は新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛により、最近10年で最低の入込となった。</p> <p>・史跡盛岡城跡では、市民に対して石垣解体修復工事や発掘調査現場の公開や説明会を開催し、魅力の発信に取り組んだ。来訪者が石垣の構造や発掘調査で発見された建物跡を見学することで、史跡の内容理解につなげることができた。</p> <p>平成23年度に開館した「もりおか歴史文化館」では、館収蔵資料を中心とした各種展示会を開催し、城下町盛岡の歴史や文化に触れる機会を創出しており、令和3年度までに219万人の来館者があつた。</p>																			
<p>④ 自己評価</p> <p>・史跡や歴史情緒あふれるまち並みを活用した観光施策により、観光客の入れ込みがが增加した。また、外国人観光客への受け入れ体制を整備することにより利便性が図られた。</p> <p>・史跡盛岡城跡と隣接するもりおか歴史文化館において、盛岡の歴史文化を公開・発信する事業を相互に展開することで、城下町盛岡の魅力向上につながっている。</p>		 <p>盛岡市への観光客の推移</p>  <p>石垣修復工事現場の公開</p>																	
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>・引き続き、史跡や歴史的まち並みを活用して、観光客の回遊性を高める観光施策を展開し、国内外からの観光誘客につなげていく。</p> <p>・史跡盛岡城においては、史跡の保存整備とともに、歴史性の理解につながる情報発信を継続する。また、もりおか歴史文化館においては、城下町盛岡の歴史や文化の魅力を発信するための展示会等を継続的に実施する。</p>																			

市町村名	盛岡市(景観政策課)	評価対象年度	H30～R4年
効果	ii 良好な景観の形成		

① 効果の概要

景観計画に定める形態意匠の制限により景観を守る意識が浸透し、景観重要建造物の復元、景観重要樹木の樹勢診断と維持管理の助成、都市景観シンポジウムの開催や景観賞の選定による啓発事業により、市民の景観意識が向上し良好な景観の形成が図られた。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	盛岡市総合計画	あり	R4～R6
2	盛岡市景観計画	あり	H21～
3	盛岡市歴史的風致維持向上計画	あり	H30～R9

盛岡市景観計画では、外観の色彩制限の他に、重点地域として眺望保全領域では、視点場から眺望の阻害とならないような高さ制限や、歴史景観地域では、設備の遮蔽などに制限を課している。地域のランドマークであった景観重要建造物である紺屋町番屋の修復を行った。

③ 効果発現の経緯と成果

景観計画による行為届の審査は毎年約1,600件弱で推移している。盛岡城公園からの眺望領域では、事務所ビルの建替えの際に低層化し、岩手山の眺望を確保した。景観重要樹木の樹勢診断と所有者に対する維持管理費の補助金交付は毎年実施している。大正2年に建築された紺屋町番屋は、景観重要建造物、歴史的風致形成建造物の指定を行い、改修工事を経て当時の外観を保ったまま利活用事業が開始された。一般市民に対しての啓発活動として都市景観シンポジウムは45回目、都市景観賞は187件目の受賞となり、景観意識の向上に貢献している。

● 総合計画・実施計画によるまちづくり指標（成果指標 %）

	誇れる市街地景観	誇れる田園丘陵の景観	誇れる山地の景観	改善したい景観がある
H30	72.2	58.9	70.0	21.4
R3	73.1	62.3	76.6	39.2
増減	+0.9	+3.4	+6.6	▲17.8



盛岡城跡公園から岩手山眺望を確保

審査(件)	H30	R1	R2	R3
景観行為届	1,564	1,435	1,546	1,584
認定申請 (大慈寺地区)	14	10	13	10



大慈寺地区の盛岡町家



景観重要建造物の改修

④ 自己評価

行為届の審査や認定申請について、景観計画に基づく丁寧な審査、指導を行い、古くからあった建物の改修や、都市景観賞の選定、景観シンポジウム開催による啓発活動も行っており、このような地道な活動により誇れる景観や良くなった景観の指標向上につながっている。



景観重要樹木の樹勢診断

⑤ 今後の対応

良好な景観形成に向け、成果指標にある「改善したい景観」について、内容の把握に努める。景観重要建造物の計画的な修繕を目指し、景観重要樹木も老木化が進んでいることから保存と安全対策を考慮し、所有者に対する補助のありかた等についてもヒアリング等を行い良好な保全による景観の形成を図っていく。

市町村名	盛岡市(景観政策課)	評価対象年度	H30～R4年
取り組み	A 歴史的風致形成建造物保存整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>紺屋町番屋は、大正2年「消防組第四部事務所」として改築され、火の見櫓が特徴的な佇まいは、100年以上にわたり地域のシンボルとなっていた。平成27年3月には地元より盛岡市へ寄贈され、盛岡市の歴史的風致形成建造物等の指定後、施設を活用しながら保存するため、耐震改修等を行い、賃貸借契約による事業者選定を行った。従来の外観を保持しつつ、地域の方々をはじめ多くの皆様に御利用いただける、交流・体験施設として生まれ変わった。</p> <p>寄附受領から事業開始まで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度 建物調査委託事業(耐震補強の必要性が判明) ・平成30年度 景観重要建造物に指定 ・令和元年度 歴史的風致形成建造物に指定 ・令和2年8月 事業の可能性調査のためサウンディングを実施 ・令和3年1月 利活用に係る公募型プロポーザル審査を実施 ・令和3年3月 改修工事着工 ・令和3年11月 改修工事完了、事業者と定期建物賃貸借契約締結 ・令和4年3月 利活用開始(1階カフェ・雑貨販売、2階機織り体験) 		<p>着工前</p>  <p>地元説明会</p>  <p>竣工</p> 	
<p>② 自己評価</p> <p>改修工事を行いながら、利活用に係る提案により事業者を選定することから、内装と設備をテナント工事とし、市の改修工事と分離することで利活用の自由度を確保した。事業者が施設を利用することで建物を良好な状態に保ち、同時に公的負担の抑制を図ることができた。また、地元意見の反映を重視し情報の共有と対話を重ね、方向性を確認しながら進めてきた。</p> <p>歴史的風致形成建造物に指定したことで、街並み環境整備事業の補助金を活用し事業を推進し、改修工事では、地元の要望であるお休みどころの機能や南部火消しの資料を展示するコーナーを設け、当時の石畳や窓ガラス、額縁等を再利用する仕様とした。</p> <p>これにより、施工の節目や開所式では、各種メディアに取り上げられるほど注目され、建設当時の外観を保ったまま、火の見櫓が目印のランドマークとして、地域に受け入れられている。</p>		 	
外部有識者名	勝部 民男(盛岡市景観審議会副会長、盛岡市歴史的風致維持向上計画協議会会長)		
外部評価実施日	令和5年2月9日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>紺屋町番屋は、これまでも観光客が写真撮影していく盛岡のシンボルであり、かつては立会い演説会や様々な会合など地域に開かれた集会所として盛んに使われていた。しばらく修繕されず劣化が進み、行く末を心配していたが、市が寄付を受け、専門家による建物調査により問題点を具体化し再生への取り組みが始まった。従来の形を保ったまま、有効利用できるかが鍵であったが、地元と連携しつつ、丁寧な事業者選定により地域に開かれた事業が無事に始まった。</p> <p>番屋の象徴である望楼の活用方法を考えたり、周辺の歴史的な建築物と連携し、市民や来訪者に愛され、地域を盛り上げていけるよう期待している。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>歴史的風致形成建造物は、順次指定を行っており中には老朽化が進み、適正な保全がなされていない物もある。いかに施設を有効利用しながら保全を行うかが課題である。歴史的価値を残しながら周囲との連携を図り、市民に親しみをもち続けてもらえるように活用と維持の両立を探っていきたい。</p>			

市町村名	盛岡市（歴史文化課、公園みどり課）	評価対象年度	H30～R4年
取り組み	B 盛岡城跡保存整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>○盛岡城跡保存整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三ノ丸北西部の石垣解体修復工事の実施、現場公開の実施 ・城内・外の景観眺望改善のため、樹木の剪定・伐採等の環境整備を実施 ・本丸や台所地区の遺構確認調査を実施、発掘調査成果の現地説明会を開催 ・かつて所在した歴史的建造物に関連する史・資料調査・分析 ・史跡盛岡城跡保存活用計画の策定 <p>○情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地説明会等のイベント実施に係るPR 			<p>三ノ丸の石垣解体状況</p>
			<p>石垣解体修復工事の様子</p>
<p>② 自己評価</p> <p>史跡盛岡城跡の重要な要素である石垣を将来にわたり適切に保存していくため、三ノ丸北西部の石垣解体修復工事を実施するとともに、盛岡城の理解促進につなげるため、本丸や台所地区を中心とした範囲で、建物跡等の遺構確認調査を実施し、併せて市民に対し成果等の説明会等を開催し市民理解を促進した。</p> <p>さらに、史跡の正しい理解につなげるため、かつて城内に所在した建造物に関連する史・資料調査・分析を行い、歴史的建造物の復元調査の可能性について検討した。</p> <p>また、史跡盛岡城跡を将来にわたって適切に保存し、積極的な活用、整備を推進させていくため、史跡盛岡城跡保存活用計画の策定に取り組んでいる。</p>			
外部有識者名	勝部 民男(盛岡市景観審議会副会長、盛岡市歴史的風致維持向上計画協議会会長)		
外部評価実施日	令和5年2月9日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>昨年10月29日に開催された史跡盛岡城跡現地公開に一般市民として参加した。城の構造、石垣の作り方、石の重量計測、石の割り方など、模型を使ったり石工の説明があり、非常に意にかなった企画で、参加者が多数参加したこの取り組みは高く評価したい。</p> <p>この城跡は単なる歴史上の建造物ではなく、盛岡人のアイデンティティのよりどころになるものである。また、発掘による遺構調査や城の復元についても、資料さえあれば不可能ではない。城の再建に向けた調査、石垣の修復、現地公開等は、市民の理解を得られており、一層の奮闘と努力を期待している。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>今後も継続的に、史跡盛岡城跡の保存整備に取り組んでいく。また、史跡の正確な理解促進のため、歴史的建造物の復元整備をはじめ、発掘調査成果等に基づく遺構表示や説明版設置等に取り組むこととする。</p>			

市町村名	盛岡市（道路建設課）	評価対象年度	H30～R4年
取り組み	C 無電柱化事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>盛岡市歴史的街並み保存活用計画において、重点保存地区となっている大慈寺地区の歴史的景観を保全するため、電線共同溝整備事業等に取り組んでいる。電線等の地中化による景観の改善の外、意匠性の高い高品質舗装（石畳風）を行うことで歴史的景観の向上に期待できる。</p> <p>【取り組みの経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度：電線共同溝及び道路詳細設計を実施。 ・令和2年度：沿線地権者を対象に説明会を実施。 電線共同溝特殊部設置工事（1箇所）を実施。 ・令和3年度：電線共同溝特殊部設置工事（2箇所）を実施。 ・令和4年度：電線共同溝工事（無電柱化計画延長550m中100m）を実施。 <p style="text-align: center;">【無電柱化に伴う景観の改善】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>（整備前）</p>  </div> <div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">➔</div> <div style="text-align: center;"> <p>（整備後）※イメージ図</p>  </div> </div>			
<p>② 自己評価</p> <p>事業を進めるにあたり、地元へ説明会を行い当該事業に対する理解並びに意識醸成を図ることができた。長期にわたる事業であり車、歩行者、地域の生活に影響を及ぼすことから地元町内会と連携を取りながら電線共同溝工事を進めている。</p>			
外部有識者名	勝部 民男(盛岡市景観審議会副会長、盛岡市歴史的風致維持向上計画協議会会長)		
外部評価実施日	令和5年2月9日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>大慈寺地区のこの路線は、車両のすれ違いにも困るほど狭隘であり、歴史的街並みを保全し利便性を確保する上で無電柱化の効果は非常に大きい。よくぞここまで進めてくれたと高く評価したい。先は長いが取組みを確実に推進してほしい。</p> <p>また、この路線と近くにある観光拠点でもある「もりおか町家物語館」を中心として、同施設の屋外空間を伝統行事の山車や祭り、イベント等に利用するなど、柔軟な発想と積極的な運営で利活用の幅を広げる工夫を期待したい。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>電柱を撤去した後の道路整備については、地元や関係機関に整備イメージを示しており、今後、舗装の材質や色合い、照明灯の設置などを中心に様々なご意見をいただきながら進めていきたい。</p>			

市町村名	盛岡市（観光課・公園みどり課・歴史文化課）	評価対象年度	H30～R4年
歴史的風致	1 さんさ踊りにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全・活用 II 市民の歴史文化への理解と地域固有の歴史文化 III まちなみと景観形成		

① 歴史的風致の概要

盛岡市を代表する郷土芸能の一つであるさんさ踊りは、市民に古くから親しまれた盆踊りである。この踊りは、古くから盂蘭盆や秋の例大祭の時期に、地域の寺社で踊りが奉納されたほか、踊り連中という組織が家々を回って踊り歩く「家回り」など、地域毎に個性を持った踊りが継承されていた。その後、伝統的なさんさ踊りを踏まえながら一般市民が参加できる踊りが考案され、8月に行なわれる市民参加型の盛岡さんさ踊りパレードをはじめ、小中学校の運動会や地域のお祭りで踊られるなど、地域住民の交流の場には欠かせない存在となっており、盛岡市の暮らしに溶け込んでいるものといえる。

② 維持向上の経緯と成果

古くから市内各地で踊られていたさんさ踊りは、各地の団体がそれぞれの地域や市街地において活動してきたもので、戦前から続いている市民参加の盆踊りから盛岡さんさ踊りへと、より多くの市民が参加する行事へと発展し、身近なものとなっていったものであり、8月1日から4日の期間で開催される「盛岡さんさ踊り」パレードや、地域の神社の例大祭等を中心に市民の手によって活動が継承されている。

コロナウイルス感染拡大のため、令和2・3年は活動の中止を余儀なくされたが、3年ぶりに（令和4年度）盛岡さんさ踊りを開催した。

また、もりおかさんさ踊りの練習の舞台となっている史跡盛岡城跡では、史跡の保存と公園来訪者の安全確保の観点から、石垣の解体修復を進めているほか、城郭の構造や建物跡の内容確認を目的とした発掘調査を実施し、その成果等について市民に対し説明会等を開催し、魅力の発信に取り組み、史跡の内容理解等につなげることができた。

さらに、地域の生徒・児童が出演する「盛岡市青少年郷土芸能フェスティバル」については、令和2・3年度はコロナウイルス感染対策のため休止したが、保存会の取り組みにより、令和4年度は開催することができ、今後の活動継承につなげることができた。



さんさ踊りパレードの様子（R4）



盛岡城跡本丸発掘調査（R1）



青少年郷土芸能フェスティバルのポスター（R1）

③ 自己評価

史跡盛岡城跡の石垣解体修復工事や発掘調査成果の説明会を開催するなど、歴史文化資源の保存と活用について、広く市民に一般公開を行い、一層の活用を図ることができた。

また、郷土芸能をはじめとする伝統文化の保存伝承団体等への支援を通じて、伝統祭礼の保存や継承を図ることができた。

④ 今後の対応

郷土芸能の継承への取り組みについては、引き続き関係団体と連携を図りながら、必要に応じて支援を行いつつ、賑わいの創出にもつなげることができるよう取り組みを進めていく。

史跡盛岡城跡については、現在「史跡盛岡城跡保存活用計画」を策定中であるが、石垣の修復や城内の歴史的景観の向上、史跡の正しい理解につながる施策を推進していく必要がある。

市町村名	盛岡市（観光課・道路管理課・景観政策課・歴史文化課）	評価対象年度	H30～R4年
歴史的風致	2 盛岡八幡宮とその周辺における祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全・活用 II 市民の歴史文化への理解と地域固有の歴史文化 III まちなみと景観形成		

① 歴史的風致の概要

盛岡八幡宮は、延宝7年(1679)に南部家によって建立され、南部家の氏神として尊崇を集めており、盛岡に暮らす人々の信仰の対象として、折々の祭礼や行事が生活と深く関わっていると同時に、門前町とその周辺の商業活動や農村文化の発展が今につながるまちづくりに大きく影響を与えている。

盛岡八幡宮とその周辺を舞台として、6月に開催されるチャグチャグ馬コ、9月の例大祭、1月に行われる裸参りは、まちに活気を与えるだけではなく、季節の訪れを実感できる行事として、商業や農業、工業に携わる多くの人々に支えられており、盛岡に暮らす人々だけではなく、盛岡を故郷とする人々の心のよりどころとなっている。

② 維持向上の経緯と成果

盛岡八幡宮の祭礼のうち、秋の例大祭として行われる山車行事と小正月を中心に行われる裸参りは、江戸時代からの南部火消しの伝統を受け継ぐ消防団と地域の人々により継承されている。

また、例大祭の中心的な行事として継承されてきた流鏝馬神事は、装束や馬具の維持・管理、馬の確保や射手の育成など、保存会の人々の努力により継承されている。

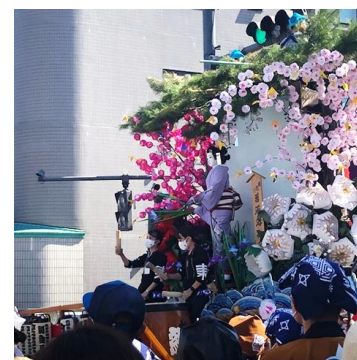
チャグチャグ馬コについても、馬の飼育や装束の確保など、保存会をはじめとする地域の人々の手によって継承されている。

令和2・3年度は、コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となったチャグチャグ馬コや盛岡八幡宮の例大祭は、令和4年度に開催したことにより、多くの観覧者が本市を訪れ、街なかの賑わい創出や、盛岡の魅力発信と再訪につながる取組となった。

さらに、盛岡八幡宮の山車行事の際に山車の運行ルート上に位置する「紺屋町番屋」では、令和 年度から改修事業に着手、地元の要望であった、お休みどころの機能と「南部火消」の資料を展示する機能を有する施設としてリニューアルし、令和4年から供用されている。



チャグチャグ馬コ(R4)



盛岡八幡宮の山車行事(R4)

③ 自己評価

少子高齢化が進む中であるが、関係者や地域の人々が大事に守り育ててきた歴史的建造物や伝統行事の継承が図られている。

また、これらの取り組みを進める中で、歴史的風致形成建造物紺屋町番屋の整備が完了し、大慈寺地区のまちなみ修景や電線地中化に取り組むなど、歴史的なまちなみの保全に寄与した。



整備後の紺屋町番屋

④ 今後の対応

盛岡八幡宮を舞台貴重な歴史遺産でもあることから、市民や地域住民が守り育ててきた行事の行われているエリアに所在する歴史的建造物やまちなみとともに、歴史的風致の維持・向上が図られるよう取り組んでいく。

市町村名	盛岡市（観光課・景観政策課・公園みどり課）	評価対象年度	H30～R4年
歴史的風致	3 水と関わる暮らしにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 市民の歴史文化への理解と地域固有の歴史文化 III まちなみと景観形成		

① 歴史的風致の概要

北上川、中津川、雫石川の合流点に城下町が築かれた盛岡市は、周囲の山々から流れ出る大小の河川に加え、地下水や伏流水に恵まれており、水に関わる建造物や伝統的な送り盆行事、多くの人々が利用するための共同井戸、水を活用した伝統的な特産品などが現在に受け継がれている。

豊かな川の流れは、人と物を運ぶ手段として活用されるとともに、伝統的な行事が行われる場でもあり、世代間交流の場ともなっている。

また、街を流れる河川や井戸は地域住民の手で維持管理が続けられており、市民が日頃から抱いている、盛岡らしい歴史と伝統を感じることでできる景観を守り育てようとする思いが歴史的風情を醸し出している。

② 維持向上の経緯と成果

歴史的街並みが残る大慈寺地区では、ひな祭りやさんさ踊りの門付けなど、四季折々のイベントに加え、地域に残る共同井戸（大慈清 水・青龍水）の維持管理が地域の人々によって大切に受け継がれている。

また、送り盆の行事として、北上川を舞台に行われている「舟っこ流し」についても、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止を余儀なくされた期間もあったが、地域の町内会等の団体により継承されている。

また、桜の名所でもある高松の池（高松公園）や市内の中心部を流れる中津川河川敷では、ボランティア団体や企業による清掃活動が行われているなど、コロナウイルス感染拡大防止による活動の縮小も見られた期間もあったが、市民が盛岡らしい歴史・文化や景観を守り伝えようとする取り組みが継続的に行われている。

新たな取り組みとしては、北上川において、かつて盛んだった舟運の実現に向けて木造船「もりおか丸」の運行実験を3回行い、北上川沿川の木伏緑地や八幡町・大慈寺町・鉈屋町界隈の各種イベントと連携した開港祭を開催し、盛岡の魅力や価値を発信した。



大慈清水（共同井戸）の清掃



黒川さんさ踊の門付け



舟っこ流しの様子

③ 自己評価

送り盆の行事である舟っこ流しは、地域の人々の手により守り育ててきた行事として継続している。

大慈寺地区における共同井戸や高松の池、中津川河川敷の維持管理や清掃作業は、盛岡を代表する景観を大切にしようとする市民の手により継続しており、市民や観光客に親しまれている。

④ 今後の対応

盛岡を代表する歴史的まちなみや公園、河川敷については、行政だけではなく、地域住民や市民が、盛岡らしいたたずまい・景観を守るための取り組みが続けられていることから、今後も関係機関や関係者との連携のもと作業の継続が図られるよう取り組むものとする。

市町村名	盛岡市（観光課・ものづくり推進課）	評価対象年度	H30～R4年
歴史的風致	4 盛岡の伝統産業にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 市民の歴史文化への理解と地域固有の歴史文化 Ⅲ まちなみと景観形成		

① 歴史的風致の概要

盛岡を代表する伝統産業である南部鉄器は、現代のニーズに即した商品を開発、販売しているほか、南部鉄器の風合いを生かしたベンチや街路灯なども生産しており、南部鉄器の文化が盛岡のまちなみと生活に溶け込んでいることを感じさせている。

また、客を満足させて帰っていただくという「振舞い」の心から生まれた「わんこそば」、酒造りに秀でた南部杜氏の手で作られるお酒など、盛岡を訪れた人々に伝統的に作られている工芸品や食品を、盛岡らしい景観の中で味わい、堪能してもらおうとするおもてなしの心と活動が、今も守り伝えられている。

② 維持向上の経緯と成果

地場・伝統産業振興事業では、南部鉄器協同組合青年部と連携し若手職人による青年展を開催し、伝統産業の保護・育成を図っていたが、令和2年度からはコロナウイルス感染症の影響で中止となっている。

わんこそばや酒造については、盛岡の風土を感じることができるよう創意工夫が行われていたが、コロナウイルス感染拡大の影響による移動制限等により来客者が減少したが、令和5年1月12日付け、ニューヨークタイムズ紙（電子版）において、中心市街地に歴史的な建物と川や公園などの自然があり、まちを歩いて楽しめるところや、コーヒー店、わんこそばのほか、書店、ジャズ喫茶などの文化が根付くまちであることが評価され、「2023年に行くべき52カ所」に「盛岡市」が選ばれたことにより、観光客の増加が期待される。



展示



南部鉄器青年展の様子（R1）

③ 自己評価

南部鉄器については、イベントやテレビ番組等を通じて認知度が向上しており、若手の作家により、新たな製品の開発への取り組みがなされている。

わんこそばや日本酒をはじめとする食品についても、海外紙での報道効果により来店・消費の機会が増えていくものと思われる。

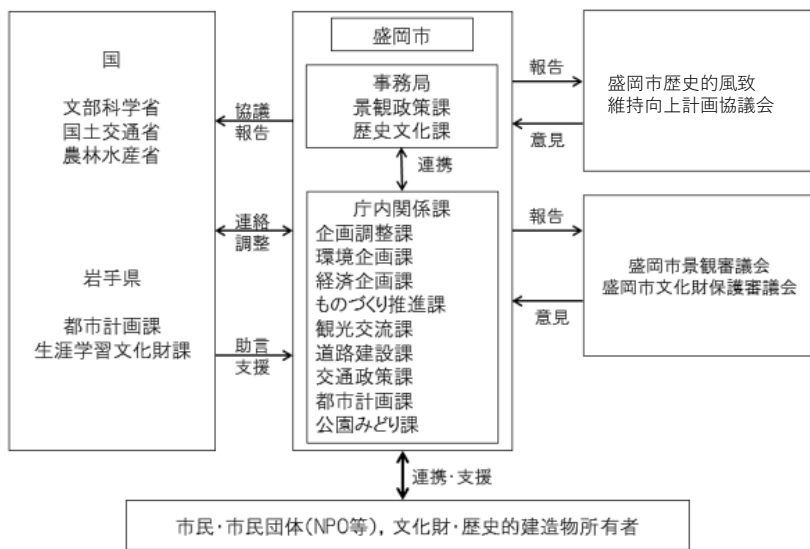
④ 今後の対応

南部鉄器については、販路の拡大や認知度向上等に取り組みながら、後継者の育成に取り組んでいく。

また、海外旅行者への対応については、必要なサインやパンフレット、案内ボランティアの育成等に取り組む必要がある。

市町村名	盛岡市（景観政策課、歴史文化課）	評価対象年度	H30～R4年
------	------------------	--------	---------

① 庁内組織の体制・変化



事務局協議の様子



歴史風致維持向上計画協議会の様子

図 計画の推進体制

本計画の推進体制については、事業推進に関係の深い景観政策課と歴史文化課が中心となり、庁内横断的な連携を図りながら、計画の効果的な推進を図っている。また、法定協議会である有識者等で構成する盛岡市歴史的風致維持向上計画協議会は、計画策定後も定期的に協議会を開催し、事業の進捗状況の報告確認や、事業の円滑な実施に係る連絡調整、計画変更に伴う協議を行っている。なお、盛岡市指定文化財や景観重要建造物、歴史的風致形成建造物に関連する事項については、盛岡市景観審議会や盛岡市文化財保護審議会に対して報告を行い、意見を聴取しながら計画を推進している。

② 庁内の意見・評価

- ・歴まちカードの作成と配布について
令和4年度に、歴史的風致維持向上計画の認定都市で発行できるカード型パンフレットの作成にあたり、象徴的な風景と歴史的資産のデザインを決めるため、各課担当者協議を行った。都市の魅力を紹介した歴まちカードは、各課より持ち寄ったデザインから投票により選定し、令和4年11月4日より5,000枚を準備し、指定スポットで来場者1人につき1枚の配布を開始した。令和5年1月末時点で残数1,900枚となり、歴史的風致の周知に効果を得られている。（参加：景観政策課、観光課、歴史文化課、広聴広報課）
- ・歴史的風致維持向上計画の周知について
令和元年7月、岩手県教育委員会の主催により、平成30年度の改正文化財保護法等に係る市町村教育委員会等担当者説明会において、県内の文化財行政担当者に対し、認定盛岡市歴史的風致維持向上計画の策定に係る取り組みを説明し、計画策定への取り組みを進めるよう啓蒙した。
さらに、岩手県文化財愛護協会が発行している「いわて文化財」に歴史的風致維持向上計画の概要を紹介するなど、県内に計画の内容や事業効果について周知を図った。（参加：岩手県教育委員会、県内文化財行政担当者）
- ・法定協議会の参加と連携
歴史的風致維持向上計画の策定に合わせ法定協議会に参加することで、目的意識や情報の共有がなされ、まちづくり活動や周知活動に連携できるようになった。今後も、それぞれの課の事業の意義を理解し連携して歴史的風致の向上に努めることが重要である。

市町村名	盛岡市	評価対象年度	H30～R4年			
<p>① 住民意見</p> <p>令和4年度都市景観シンポジウムアンケートより</p> <p>●良くなった、とても良くなった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手山が盛岡城跡公園から見えること ・木伏緑地のライトアップ、中津川沿いの緑地 ・バスセンターの再開発や旧ななっくの建替えて賑わいの復活に期待、空きビルの解消望む <p>●悪くなった、とても悪くなった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本町に駐車場が増えた ・河川内の樹木 ・中央公園の川、樹木、雑草への対応 ・姫神の風力発電や太陽光発電設備 ・昔からの店舗が閉店、画一的なマンション多い ・大通りの「盛岡の個性」が感じられなくなった ・街路樹の管理、伐採後の切り株が残っている <p>●改善すると、よりよくなるところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建物の周囲は緑化してほしい ・車中心から人中心に ・水辺の整備、中洲の浚渫 ・歩道の融雪 ・古い建物の再利用を増やしてほしい ・高層マンションの乱立で「盛岡らしさ」減少 ・パッチワークのようなガタガタの歩道 						
				とても良くなった 良くなった	変わらない	とても悪くなった 悪くなった
		H30	32	42	26	
		R4	46	30	24	
		増減	+14	▲12	▲2	
		<p>●都市景観シンポジウムのアンケート（盛岡の景観の変化 %）</p> <p>●誇れる・推薦したいもの（R4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 眺望景観 ■ 歴史景観 ■ 自然景観 ■ 河川景観 ■ 農村景観 ■ その他 				
		R4	R3	R2	H31	H30
		101	—	51	90	130
		都市景観シンポジウム来場者数				
<p>② 協議会におけるコメント</p> <p>令和5年2月15日に実施した法定協議会では、中間評価（協議会のコメントを除く）を提出し、事業の総括について議論していただいた。その結果、以下のような意見をいただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛岡の中心街のバス停の表示やタクシー乗り場の表示が非常にわかりにくい。改修した盛岡バスセンターは電光掲示板で、わかりやすいが、一般のバス停は昔からの掲示板であり分かりにくい。どの位置からどれに乗ればよいかなどの資料を行政が作成したらよいと思う。 ・『小さな博物館事業』において来盛する多くの外国人に対応し、単に英語版のパンフレットを作るのではなく、QRコードを利用して多言語化するなどデジタル化で対応してほしい。 ・盛岡シティマラソンは良い景色の中にコースが作られているので、実況中継の際には眺望のよい地点や景観の良さを周知してもらいたい。 ・最近、街路樹の伐採が多いが、管理基準や伐採基準について教えてほしい。 →基本的には市民から情報提供をいただき、地元町内会からも意見を聞いて順次対応している。近隣の方は管理が大変であるが、通行者は街路樹がある方がよいという観点があり、両立は難しい。 また、電線が通る場合は、電力会社から伐採したいという依頼があり、市としては樹形を保つ形で管理して欲しいという要望を伝えている。市では「緑の基本計画」を策定しており、街路樹の量を増やすのではなく、質を高めていこうという方針で実施している。 ・盛岡市都市景観シンポジウムは45回目を開催したが、第50回の節目には盛岡市の今までの取り組みを整理し、紙媒体にまとめるといった作業が必要かと思う。その際、昔と現在の建物や街並みの比較や消滅した経緯も含め掲載し、まち歩きにも役立つものを作ってほしい。 						

市町村名	盛岡市	評価対象年度	H30～R4年
<p>① 全体の課題</p> <p>1. 市民や観光客に対する歴史文化への理解を促進するための施設説明板、パンフレット、ホームページ等は内容の更新や、多言語化への対応が十分なされていない状態であり、情報発信力が不足している。</p> <p>2. 街並みに関して、無電柱化や景観眺望の制限、公園樹木の整備などにより良好な景観形成に向け事業を進めている一方で、盛岡城跡公園とその周辺は中高層建築物などで城下町らしい景観となっていない部分がある。</p> <p>3. 今年1月にNYT誌の2023年行くべき世界の52カ所に盛岡市が選定されたが、その理由は、中心市街地に歴史的まちなみや歴史的建造物が残されていることが評価されたものである。 今後、一連の報道を踏まえ、歴史的風致維持向上計画に関連する市の施策が評価される機会が増えることが期待されることから、庁内関係課の連携と情報共有のもと、必要に応じた対応ができるような体制整備が求められる。</p> <p>4. 協議会で委員から寄せられたコメントの中には、公共交通機関を利用した移動に関して、観光客などの利用者にとって、どの位置からどれに乗って移動するかという、利用者本位での情報提供が不足しているとの指摘があった。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>1. 印刷物での更新を進めるとともに、歴史的風致形成建造物や景観重要建造物の標識に公式HPへリンクするQRコードの貼り付けを進め、モバイル機器を用いた情報提供を進める。また、リンクによって参照されるHPの説明記事の質と量についても内容確認や更新を進めていく。</p> <p>2. 盛岡城跡とその周辺は、歴史的風致を感じて散策できる環境整備を図っていくため、城内樹木整理を進め、景観眺望領域内では引き続き高さ制限の審査を継続する。これにより眺望領域内での中高層建築物に対する高さ制限により眺望領域を確保する。大慈寺地区では地元や関係機関と連携し、電線共同溝事業を推進していく。</p> <p>3. NYT誌への掲載を踏まえ、歴史的風致維持向上計画に関連する各種施策の推進が必要となった場合は、必要に応じて情報共有を図りつつ、効率的な対応ができるような体制を整備する。</p> <p>4. 歴史的町並みや店舗などに関する情報提供などは整備が進んでいるが、それぞれの目的地へ公共交通機関等を活用した場合の案内・誘導に関する情報提供が不十分であり、整備が急務とであることから、関連部署で対応策を検討する。</p> <p>5. 上記の対応は、計画期間の後半では確実に反映できるように各課で実施し、次回以降協議会で進捗状況を報告することとする。</p>			